

～ 運転士が降車している状況で乗客を乗せた車両が逸走した鉄道重大インシデント ～

軌道経営者名：一般財団法人札幌市交通事業振興公社

インシデント種類：本線逸走

発生日時：令和5年12月12日 06時18分ごろ

発生場所：北海道札幌市

山鼻線 やまはな なかじまこうえんどおり 中島公園通停留場～山鼻9条停留場間（複線）

すすきの停留場起点1k424m付近

<概要>

一般財団法人札幌市交通事業振興公社の山鼻線中央図書館前停留場発内回り循環1両編成の第252号車の運転士は、令和5年12月12日（火）、中島公園通停留場において、停車中の同車両から降車して、同停留場に設置されている連絡電話を使用していたところ、同車両が山鼻9条停留場方向へ動いていることを認めたため、同車両へ駆け寄って乗り込み、ブレーキを使用して同車両を中島公園通停留場から約31mのところで停止させた。

同車両には乗客21名が乗車していたが、負傷者はいなかった。

<現場付近略図>

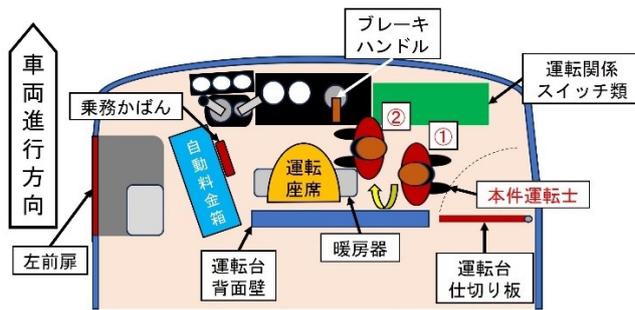


※ この図は、国土地理院の地理院地図（電子国土Web）を使用して作成

<中島公園通停留場内回り側>

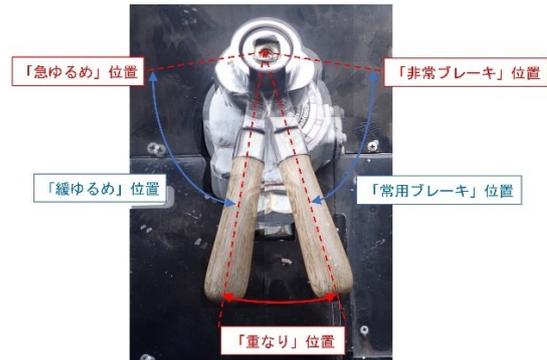


<車両運転台概略図>



※ この図は、上から見た本件車両の運転台機器等の大まかな配置を示した略図であり、正確な縮尺、大小、位置関係にはなっていない。
 ※ 図中の「①」「②」及び黄矢印は、本件運転士の動きを示す。

<ブレーキハンドル操作角度>



※ この図は、複数枚の写真を合成したものである。

<原因>

本重大インシデントは、中島公園通停留場において、停留場の連絡電話を使用するために運転士が降車している状況で、車両のブレーキが緩んだため、停車中の車両が乗客を乗せたまま、下り勾配である山鼻9条停留場方向へ逸走したものと推定される。

車両のブレーキが緩んだことについては、ブレーキハンドルが「重なり」位置から「緩ゆるめ」位置となったため、車両のブレーキシリンダー圧力が徐々に減圧したことによるものと推定される。

ブレーキハンドルが「重なり」位置から「緩ゆるめ」位置となったことについては、運転士が着ていた外とうがブレーキハンドルと接触したことによるものと推定され、運転士は外とうを着て厚着であったため、接触した感覚が鈍くなっており、ブレーキハンドルとの接触に気付かなかったものと考えられる。

<必要と考えられる再発防止策>

(1) 会社に必要と考えられる再発防止策

- ① 運転士が車両を離れる際の取扱いを定める必要がある。
- ② 運転士へ規定どおりの取扱いを行うよう、指導を徹底する必要がある。
- ③ 運転士と運転管理室との連絡手段について、使用する機器の優先度を定めることが望ましい。

(2) 交通局に必要と考えられる再発防止策

保有する全ての車両に、運転士が運転席を離れた場合に自動的にブレーキが作動する装置を取り付けることが望ましい。

詳細は、運輸安全委員会ホームページ (<https://www.mlit.go.jp/jtsb>) より、
 鉄道重大インシデント調査報告書をご覧ください。